

平成 30 年度
入 学 試 験 問 題

第 3 回
国 語

- 1 問題用紙は監督者^{かんとくしや}の指示があるまで開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点^{くとうてん}や符号^{ふごう}は一字として数えるものとします。
- 5 問題は 1 ページから 16 ページまであります。

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	----------------	--

森村学園中等部

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

僕たちはどうすれば「生きづらさ」や「不幸」「絶望」などのいわゆる実存問題を乗り越えることができるのだろうか？

世界は欲望の色を帯びている。ということは、つまり僕たちの生きづらさや不安、怒り^{いか}なんかも、その理由の根本には、僕たちの何らかの欲望があるということだ。

たとえば、僕にひどく嫌いな人がいたとしてみよう。その人のことを思うと、夜も眠れなくらい憎々しい気持ちになる。そうして何か、自分がすり減っていくような気さえてしまう。

そんな時、僕たちは往々にして、その人は客観的に人間としての問題がある奴^{やつ}なんだと考えてしまう。そうしてその客観的な理由を、あれこれ見つけ出そうとしてしまう。

でも、客観的な悪人なんていない。別の人からみれば、その人は思いやりのあるやさしい人かもしれないのだ。

① 僕がその人をイヤな奴だと「確信」している理由は、本当は僕の内側にある。僕の何らかの「欲望」が、その人を悪人だと確信させているのだ。

その「欲望」に目を閉ざしたまま、あるはずのない相手の客観的な問題を見つけ出そうとするかぎり、僕は結局、やり場のない憤りや不安や焦燥感にさいなまれつづけることになるだろう。
しょうそうかん

だから僕たちは、そんな時、自分の奥底の欲望に思いをいたしてみる必要がある。

もしかしたら、僕は本当はその人みたいになりたいのかもしれない。才能があつて、お金もあつて、みんなの人気者で……そんなあの^い人に、ルサンチマン（妬み・そねみ）を抱いているのかもしれない。

と、もしそんなふうに自分の欲望に思いつたとすれば、それだけで、僕たちはやり場のない怒りや不安とちよつとは折り合いをつけられるようになる。自分の感情の正体を知れば、それを制御することも可能になるのだ。
②

たとえば、その人とできるだけ距離をとって、自分のルサンチマンを発動させないようにすることだつてできるかもしれない。あるいは、むしろこれを、自分の成長のためのいい刺激にしてしまうことだつてできるかもしれない。

その「折り合いのつけ方」のひとつを、一八世紀の哲学者ジャン・ジャック・ルソーの洞察から想を得て、以下にちよつとご紹介してみたい。

ルソーはその著書『エミール』の中で、不幸の本質を次のようにいい表している。すなわち、「不幸とは欲望と能力のギャップである」ともすぐれた洞察だと思う。

哲学は、物事の、あるいは問題の「本質」を洞察することで、その問題を力強く解決するための「考え方」（原理）を提示する営みだ。ルソーは不幸の「本質」を洞察した。とすれば僕たちは、この「本質」を手がかりに、不幸から抜け出すための方法もまた考えていけるようになる。

お金持ちになりたい。でも、どうがんばってもその見込みはない。

あの人に愛されたい。たまらなく愛されたい。でも、どうしても振り向いてくれない。

不幸や絶望は、そんな激しい欲望が叶わないところにやってくる。

そんな時、僕たちはいったいどうすればいいのだろうか？

不幸の本質が欲望と能力のギャップにあるのだとすれば、この不幸から逃れるための道は原理的に三つある。

一つは、いうまでもなく「能力を上げる」こと。努力に努力を重ねて、お金持ちになる能力を身につける。愛される能力を身につける。それが一番望ましい道だろう。

でも、それは口でいうほど簡単なことじゃない。

そこで二つ目の道は、①「欲望を下げる」こととなる。そんなに望ましいことではないかもしれないけど、欲望と能力のギャップがなくなれば、ひとまず不幸からは逃れることができる。

そして最後に、もしかしたらこれこそが不幸から逃れるための一番役に立つ考え方なんじゃないかという道がある。

②「欲望を変える」という道がそれだ。

お金持ちへの欲望を、たとえば家族といっしょに過ごす欲望へと変える。

愛してやまない人を、どこか心の奥にしまって、また別の人を見つける。

もちろん、それはひどくむずかしいことだ。でも、実は人間は、どんなに激しい欲望でも、意外に簡単に変えてしまうことができるものなのだ。

欲望は変わる。これは僕たち人間の希望なのだ。

もちろん僕は、いついかなる時も欲望を変えよといっているわけじゃない。苦しくて苦しくて仕方がない時、僕たちには「欲望を変える」という選択肢もあるといっているだけだ。

欲望の泥沼^{どろぬま}にはまったままがきつづけるのは、ひどく苦しい。でも僕たちには、それまでの欲望とはまた別の欲望を豊かに生きる道だつてあるのだ。

このことを自覚しているだけで、人生との向き合い方はきつと格段にちがってくるはずだ。

さて、^③ところが現代の僕たちには、近代人ルソーには思いもつかなかったもうひとつの不幸の本質がある。

自分の欲望が、そもそも何なのかが分からないという苦しみだ。

フランス革命前夜のルソーの時代、人びとは、絶対王政の社会の中で「自由に生きられない苦しみ」にもがいていた。

ひるがえって今、政治的自由や生き方の自由なんかを一応は手に入れた現代の僕たちは、むしろ「やりたいことが分からない」苦しみにもがいている。何をやるうがあなたの自由だ、どう生きたってかまわない、そういわれればいわれるほど、自分は何がしたいのか、どう生きたら幸せなのか分からない、そんな不幸を僕たちは抱^{かか}えることになったのだ。

世界は欲望の色を帯びている。だから、もし僕たちが欲望をほとんど持たなかったなら、世界からは彩^Aりが失われてしまう。

好きな人ができた時、僕たちの世界は彩^{はな}り豊かに華やき出す。本好きの人にとって、書店は胸躍^{むねおど}らせる宝の山だ。起業家の目には、周囲の人も、最新テクノロジーも、時事問題も、あらゆることが何かのチャンスのように映っているにちがいない。

でも、好きな人も、好きなことも、やりたいことも、何もなかったとしたら……。本屋はただの紙束置き場、周囲の人はしゃべる人形、といったくらいにしか、僕たちが思うことはないだろう。

もつとも、そんな色のない世界が大して苦しいことじゃなかったら、そこには何の問題^Bもない。

でも、前述したように、もしも自分の欲望が分からないことが苦しいことであるならば、僕たちはやっぱり、何らかの仕方で欲望を見つけ出し、世界に彩^ありを与える必要がある。

そんな時、僕は学生たちに、次の二つの方法をアドバイスすることがある。

一つは、価値観や感受性を刺激するものにたくさん触^ふれること、そしてその経験を、人と交換^{こうかん}し合うことだ。

映画や小説、音楽など、自分の価値観や感受性を刺激するものに触れて、自分はどんな作品に心動かされるんだろうということを見つめてみる。そしてそれを、人と交換し合う。

そうすることで、僕たちは、自分はいったいどういう人間で、何を求め、どのように生きたいと思っているのかが、徐々に分かつてくることがある。人とはちよつとちがう感受性に気づいたり、どんな人と共感し合えるのかを知ったりする。

迂遠^{*うゑん}な道のりのように思えるかもしれない。^④でも長い目で見れば、こうした経験を重ねることで、僕たちは自分の欲望を見つめ、これを育てていくことができるはずなのだ。

一方、何を見ても聞いても、心が動かされないということが時にある。映画も音楽も、全然心に響かない。そんな時も、人生にはしばしば訪れる。

ひどいウツに陥^{おちい}った時とか、失恋^{しうれん}した時とか、大きな夢が崩^{くず}れ去^さった時なんかがそうだ。

そんな時、僕たちの欲望はすべて砕^{くだ}け散^ちり、世界はのっぺらぼうのように味気のないものになる。

(中略)

^⑤そんな時に僕が推奨^{すいしょう}しているのは、「キッチン掃除メソッド」と呼んでいるものだ。

とりあえず、キッチン(トイレなんかでもよい)を掃除してみる。するとそこには、不思議なことにちよつとした意味[〃]の世界が現れる。掃除によって、僕は世界にほんのわずかの意味[〃]を与えたのだ。

何を大げさなふざけたことを、と思われるかもしれないけど、ウツや失恋や挫折^{ざせつ}に苦しんでいる人は、ダマされたと思ってぜひ試してもらえたらと思う。僕自身で実証済みの、意外にあなどれない方法なのだ。

何の欲望もないまま、ただ無心でキッチンを掃除していると、いつのまにか目に見えてキッチンが綺麗^{きれい}になっていたことに気づく。その時僕は、僕の存在が、この世界に少しばかりの意味[〃]を与えたことを知る。

そうして与えた小さな意味[〃]は、僕が自分にとっての「意味の世界」をもう一度結わえ直していく最初の結び目になる。

僕と世界はつながっている。そんなかすかな実感がやってくる。

その実感は、最初は弱々しく、でもじわりじわりと、僕たちのさまざまな欲望を再び起動させることになる。次はあれをやってみようかな、あれもちよつと面白そうだな……。そんなふうに、欲望の触手^{しよくしゅ}が少しずつ伸びていくのだ。

こうして世界は、再び豊かな彩りを取り戻^{もど}すのだ。

(苫野一徳^{とまのいつとく}『はじめての哲学的思考』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注)

* 往々にして……たびたび。

* 焦燥感……いらだち、あせる気持ち。

* さいなまれる……苦しめられる。

* そのねみ……自分より優れている人や恵まれている人をうらやみねたむこと。

* 制御……相手をおさえつけて自分の思うままに動かすこと。

* 洞察……物事をよく観察してその本質を見抜くこと。

* 想を得る……考えが浮かぶ。

* 迂遠……遠回りな。

* ウツ……気がふさぐこと。

問一

①「僕がその人をイヤな奴だと確信している理由は、本当は僕の内側にある」とありますが、「理由」が「僕の内側にある」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が相手を嫌な奴だと思ふ原因は、実は自分は全く悪くないと思ひ込んでゐることにあるということ

イ 自分が相手を嫌な奴だと思ふ原因は、実は自分と相手を無意識で比べてゐることで生まれるということ

ウ 自分が相手を嫌な奴だと思ふ原因は、実は相手にあるのではなく自分の抱える感情の方にあるということ

エ 自分が相手に嫌な奴だと思ふ原因は、実は相手の良いところを認められない心のせまさにあるということ

問二

②「僕たちはやり場のない怒りや不安とちよつとは折り合ひをつけられるようになる」とありますが、「怒りや不安と折り合ひをつける」にはどうすればいいと筆者は述べていますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が抱えているいらだちや不安を、相手のせいにしてしようとするのをやめる。

イ 自分の中にある怒りや不安を生み出している感情に、しっかりと向き合う。

ウ 自分がいくらあこがれてもその人のようにはなれないと考えて、諦めをつける。

エ なぜ自分が怒りや不安を感じているかを冷静に考えて、気持ちを落ち着かせる。

問三 次の会話は、~~~~~㉞『能力を上げる』、㉟『欲望を下げる』、㊱『欲望を変える』という『不幸の解決方法』について、生徒たちが

話し合ったものです。これを読んで後の問いに答えなさい。

はなこさん 「ここに出てくる『不幸から抜け出すための方法』だけど、私たちの身近な『不幸』にも使える方法よね。」

コウヘイくん 「僕もちょうど今やっているところだよ。この間の運動会の徒競走で僕は二位になってしまつて、それがすごく悔しかったんだ。だからその翌日から毎日トレーニングをしているんだ。」

はなこさん 「それは㊲①方法で『徒競走での悔しい結果』という『不幸』を解消しようとしているのね。」

シュンくん 「じゃあ僕の『不幸』も解決できるかな？ この間、好きなまんがの新刊が二冊いつぺんに出たんだけど、おこづかいが足りなくて買えなかつたんだ。」

コウヘイくん 「それなら『欲望を下げる』方法を使うといいよ。㊳②」というのはどうかな？」

(1) ㊲①に当てはまる語句として最も適当なものを~~~~~㉞㊱㊲から一つ選び、記号で答えなさい。

㉞『能力を上げる』 ㊱『欲望を下げる』 ㊲『欲望を変える』

(2) ㊳②に当てはまる、本文の内容にあった方法を自分で考えて答えなさい。

問四

———③「ところが現代の僕たちには、近代人ルソーには思いもつかなかつたもうひとつの不幸の本質がある」とありますが、「近代人ルソー」による不幸と「現代の僕たちが抱える不幸」との間にはどのような違いがあるのですか。五十字以上六十字以内で答えなさい。

問五 || A「彩り」、B「問題もない」のそれぞれと用法が同じものを次から選び、記号で答えなさい。

A 彩り

ア 待ちに待った給食の時間だ。

イ この問題は話し合いで解決しよう。

ウ 音楽会では大きな声で歌う。

エ 古くからのしきたりを守る。

B (問題も) ない

ア 年末は町全体がせわしない。

イ 僕はそこには行かない。

ウ 負けてしまって面目ない。

エ 締め切りまでもう日がない。

問六

④ 「でも長い目で見れば、こうした経験を重ねることで、僕たちは自分の欲望を見つめ、これを育てていくことができるはずなのだ」についてあとの問いに答えなさい。

(1) 「こうした経験」の内容を最も適当に示している一文を本文中に求め、最初の七字をぬき出さない。

(2) 「僕たちは自分の欲望を見つめ、これを育てていくことができるはずなのだ」とありますが、筆者が「欲望」を「育てる」ことをすすめているのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私たちは欲望を持つことで、時に他者を蹴落としてでも、強い気持ちで自分の幸せをつかむことができるから。

イ 私たちは欲望を持つことで、自分が本当に好きなものは何なのかを知り、知識を深めていくことができるから。

ウ 私たちは欲望を持つことで、様々な価値観を持つ人たちと交流したい、という意欲がわいてくるから。

エ 私たちは欲望を持つことで、目に映るものに対して興味や関心を持って、積極的に関わることができるから。

問七

⑤「とりあえず、キッチン（トイレなんかでもよい）を掃除（そうじ）してみる」とありますが、筆者が「掃除」を勧め（すす）めているのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 掃除をすることで、いつのまにか無心になってものごとに取り組めるようになり、それによって他のことにも集中できるようになるから。

イ 掃除をすることで、自分と世界とがつながっている自信が生まれ、それをきっかけにまた欲望が持てるようになるものだから。

ウ 掃除をすることで、普段は見落（おろ）としていたものにもきちんと意味があることを実感することができ、生きる希望が湧（わ）いてくるから。

エ 掃除をすることで、自分の存在が世界に少しでも意味を与えているという実感が持てて、失っていた自信を取り戻（もど）することができるから。

問八

この文章で述べられた内容と合致（がっち）するものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が相手を嫌（いや）だと思う原因の中には、相手への尊敬やあこがれの気持ちがあることもある。

イ 欲望が満たされずに苦しくてたまらない時でも、それが叶（かな）うまで強い思いを持ち続けるべきだ。

ウ ルソーの時代には人々は様々な欲望を持っていたため、うまく折り合いがつけられず苦しんでいた。

エ 現代ではたくさんの「作品」に触（ふ）れて意見を交換（こうかん）し合うことで、本物の友達を見つけやすくなる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

蔵原走は、寛政大学の陸上部員として先輩の清瀬、留学生のムサたちとともに箱根駅伝の出場を目指している。数か月前の記録会で、箱根駅伝の常勝校である六道大学のエース藤岡（藤岡と清瀬は高校時代チームメートであった）と出会ってからは、走の箱根にかける思いはいつそう強まっていた。以下は箱根駅伝の出場権をかけた、予選会のレースを走り終わった場面である。

走はふと、清瀬の手もとを見た。クーラーボックスに入れて持ってきた氷が、ビニール袋のなかで溶けかかっている。

「氷をもらってきます。あそここの売店で、わけてもらえるかもしれない」

重苦しい空気から逃れたくて、走は立ちあがった。ムサも同じ気持ちだったのだろう。

「私も行きます」

と言つて、ついてきた。

芝生広場を横切り、赤い屋根の売店を目指す。予選通過を確信できた大学は、選手の表情ですぐわかる。緊迫感を漂わせているのは、寛政のようにボーダーライン上の大学だ。もつと下位であることが歴然としていた。大学は、総じて穏やかに結果発表を待っていた。なかには、女子マネージャーが作った重箱の弁当を、仲良くつついているチームもある。

いろいろだな、と走は思った。このひとたちにとっては、予選会に出る、ということが目標なんだ。最初から結果はわかりきっているから、走り終わったらピクニックと同じようなイベントにして、楽しんでしまう。それが悪いわけではないけれど、俺たちとはちがう。走はそう感じた。

俺は、予選会で終わるなんてごめんだ。もつと高みを見たい。もつと速く、強いチームになって、箱根駅伝で戦いたい。そのための練習をしてきたし、そのためならこれから、もつと練習する気持ちがある。

「どうなるでしょうね、走」

ムサが心配そうに話しかけてきた。

「行けますよ、箱根に」

走は請けあつた。熱いマグマが、腹の底に湧いてくる。今日だって全員が全力で予選会を走った。負けるわけがない。力のこもった言葉に、ムサは目を見開いた。

「走はなんだか、強くなったようです」

「そんなことはないですよ」

走は首を振った。「俺たち、けっこう頑張^{がんば}って走ったじゃないですか。だから大丈夫^{だいじょうぶ}だと思うだけで」ムサはうなずいた。

②「そうですね。私たちは箱根に行くのでした。みんなで」

ムサが言うとおとぎ話の幸福な結末のようにも、信頼^{しんらい}のおける予言のようにも聞こえるのだった。

走とムサが、「氷がほしい」と頼^{たの}んだところ、売店の店員は快くわけてくれた。手ぶらで来てしまったので、店員は紙コップに氷を入れる。「うっかりしていましたね」と話すムサの背後を見物客の一団が通りかかった。

「また黒人選手がいる。ずりいよなあ、留学生を入れるのは」

「あんなのがゴロゴロいたら、日本人選手はかないっこないもんな」

①聞こえよがしな囁^{ささや}きに、ムサはサツと顔を強張らせ、走は振り返って抗議^{こうぎ}しようとした。

「いいんです、走」

ムサが押^おしとどめる。「今日だけでも、ああいう意見をずいぶん耳にしました」

「あんな勝手なこと、言わせておけないですよ！」

走はなおも、遠ざかっていく見物客を追おうとしたが、ムサに腕^{うで}をつかまれた。

「喧嘩^{けんか}はいけません。あのひとたちが言っているのは、陸上の才能を見込ま^{みこ}れてやってきた留学生のことでしょう。私は恥^はずかしいです。自分が恥^はずかしいです。彼ら^{かれ}には区別^{くべつ}がないようですが、私の足は速くない。やっ^{II}つかまれるほどの才能もない、ただの留学生だからです」

「そんなこと、関係ない！」

走は憤然^{ふんぜん}とした。「ムサさんも、俺も、今日、一位と二位を取ったひとたちも、同じコースを走ったことには変わりないですよ。それを

あんな……」

どう言っているのかわからなかったが、走は悔^{くや}しかった。ともに寝起^{ねお}きするムサも、自分自身も、会話を交わしたこともない他大学の留^③学生も、まとめて侮辱^{ぶじよく}された気分だった。そうだ、うまく表現できないけれど、これは走りに真剣^{しんけん}に向きあうものに対する侮辱だ。走は肩^{かた}をいからせた。

「蔵原の言うとおりでな」

と声がした。振り向くと、頭^⑦をつるつるに丸めた、ひよろ長い男が立っていた。

「だが、放っておけ。あいつらは、走るってことがわかっていない素人だ」

男は走とムサが見ているまえで、売店でウーロン茶を買った。どこかで会ったことがある。走は警戒^{けいかい}を解かないままに、あわただしく記^き

憶を探った。この、よく光る頭には見覚えがあるぞ。

「六道大の藤岡！……さん」

走は解答を導きだした。箱根で連続優勝している六道大。そのキャプテンの、藤岡一真だ。春の東体大記録会で顔を合わせたきりだが、どうしてこのひとが、予選会になんか来てるんだらう。

走の疑問を読み取ったのか、

①
「敵状視察だよ」

と藤岡は言った。「寛政大はずいぶん強くなったな。箱根まで出てきそうじゃないか」

藤岡には王者の余裕と貫禄があった。

「おかげさまで」

走は生来の負けん気が頭をもたげ、*こころぜん昂然と答えた。藤岡は、一步も引かぬ視線を走と激突させてから、ムサを見た。

「ああいう輩は、気にしないほうがいい。ばかげた意見だ」

「どういふところがですか」

茶を飲みながら去っていこうとする藤岡を、走は呼びとめた。見物客の、ムサへの言いぐさには腹が立つ。だが、どうして腹が立つのか、はつきりと把握できなかった。このもやもやの原因がどこにあるのか、藤岡はわかっていようだ。

「教えてください」

と走は頼んだ。藤岡は足を止め、おもしろそうに走を眺めた。「いいだろう」と、走とムサに向き直る。

「ばかげた部分は、少なくとも二つある。ひとつは、日本人選手が太刀打ちできないから、留学生をチームに入れるのはずるい、という理屈。じゃあオリンピックはどうするんだ。俺たちがやっているのは競技であって、お手々つないでワン・ツー・フィニッシュする幼稚園の運動会じゃない。身体能力に個人差があるのは、当然のこと。しかしそのうえでなおかつ、スポーツとは平等で公正なものなんだ。彼らは、同じ土俵で同じ競技を戦うとはどういうことかを、まったくわかっていない」

ムサは黙って、藤岡の言葉に聞き入っている。走は、静かに繰り返される藤岡の分析に、ただ圧倒されていた。

「彼らのもうひとつの勘違いは、勝てばいいと思っ
てるところだ」

と、藤岡はつづけた。「日本人選手が一位になれば、金メダルを取れば、それでいいのか？ 断固としてちがうと、俺は確信している。競技の本質は、そんなところにはないはずだ。たとえ俺が一位になったとしても、自分に負けたと感じれば、それは勝利ではない。タイムや順位など、試合ごとにめまぐるしく入れ替わるんだ。世界で一番だと、だれが決める。そんなものではなく、変わらない理想や目標が自分のなかにあるからこそ、俺たちは走りつづけるんじゃないのか」

⑤ そうだ。走は、もやもやが晴れていくのを感じた。こういうことに、俺は引っぱり、怒りを覚えたんだ。藤岡はすごい。走の感じたこと、言いたかったことを、いともたやすく解きほぐして言葉にしてしまった。

「あいかわらずだね、藤岡」

と声がした。いつのまにか清瀬が、走とムサの背後に立っていた。

「部外者が余計なことを言った」

⑥ 藤岡はストイックな態度で清瀬に一礼し、今度こそ去っていく。

「いいや、助かるよ」

清瀬が言うと、藤岡は肩越しに振り返り、口の端に笑みを浮かべた。

「なかなかの人材をそろえたようじゃないか」

「まあね」

「箱根で待つ」

最後まで、王者にふさわしい毅然とした態度で、藤岡は木々のあいだに消えていった。涅槃で待つ、みたいだなとか、ここまで来たのに結果発表は見えていかないのかな、などと走は思ったが、あわてて藤岡の背中に向けて頭を下げる。ムサも、「ありがとうございます」と言って深々とお辞儀をした。雷雲を払うような藤岡の言葉が、走とムサに活力を抱かせた。

「袋も持たずに行ってしまうから、追ってきた」

清瀬はビニール袋を掲げてみせた。走は「すみません」と受け取り、店員からもらった氷を袋に移す。清瀬はもう、脚を引きずることなく歩いている。

「藤岡さんというのですか。すごいかたですね」

とムサは感激したふうだ。

「箱根で勝ちつづけるには、精神力と本当の意味でのかしこさが必要だってことだろう」

⑦ 清瀬はちよつと笑った。「まあ、あいつは昔っから、妙に落ち着いてたけど。あだ名が『修行僧』の高校生って、ちよつといやだろ」

走とムサは顔を見合わせ、たしかに、とうなずいた。

ゴール地点近くの大きな掲示板に、見物客や選手たちが集まりはじめている。

「そろそろ発表だな」

「行きましょう」

ムサは小走りになって、寛政大の陣地へ戻る。走は清瀬のペースに合わせて、ゆつくりと芝生を踏みしめた。どんな結果が出るか気になる

が、ここまで来てあがいても、もうどうにもならない。^⑧それよりもいま、走の心を占めているのは、藤岡の姿だった。

思いを言葉にかえる力。自分のなかの迷いや怒りや恐れを、冷静に分析する目。

藤岡は強い。走りのスピードも並ではないが、それを支える精神力がすごい。俺がただがむしやらに走っているときに、きっと藤岡は目まぐるしく脳内で自分を分析し、もつと深く高い次元で走りを追及していたのだろう。

走はうちひしがれると同時に奮い立つという、奇妙な興奮を味わった。

俺に欠けていたのは、言葉だ。もやもやを、もやもやしたまま放っておくばかりだった。でも、これからはそれじゃだめだ。藤岡のように、いや、藤岡よりも速くなる。そのためには、走る自分を知らなければ。

それがきつと、清瀬の言う強さだ。

「俺、わかってきたような気がします」

走はぼつりと言った。

「そうか」

清瀬は満足そうだった。

(三浦しをん『風が強く吹いている』より)

(注) *歴然……明白なさま。はっきりと分かるようす。

*昂然……自信に満ちて誇らしげなさま。

問一

①「俺たちとはちがう」とありますが、ここでの「走」の気持ちを説明したものととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 予選通過を確認して安心した表情の選手たちをみて、箱根駅伝の本番はこれからであるのに気が緩んでいると内心で非難している。

イ 予選後にピクニック気分ではしゃいでいる選手たちをみて、チームによって目標も様々であることを理解しつつも、自分たちの決意を新たにしている。

ウ 緊張した面持ちで結果を待っている選手たちをみて、頑張つて練習してきた自分たちが負けるはずはないと本戦への出場を確信している。

エ 穏やかな表情で予選結果を待つ選手たちをみて、緊張を感じている自分たちの方が箱根駅伝にかける思いは強いのだと誇らしく思っている。

問二

——②「ムサが言うと、おとぎ話の幸福な結末のようにも、信頼しんらいのおける予言のようにも聞こえるのだった」とありますが、「おとぎ話の幸福な結末のよう」、「信頼のおける予言のよう」とは「ムサ」のどのような様子をたとえたものですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 想像力が豊かでどこか夢見がちな発想が、相手にも明るい希望を抱かせてくれる様子
- イ 自分の感情を表に出さずに淡々と語る口調が、不思議な説得力を持っている様子
- ウ 受け答えをするときの誠実で落ち着きのある雰囲気ふんいきが、周囲の人に安心感を与える様子
- エ 小さなことにはくよくよししない明るい人柄ひとがらが、周囲の雰囲気をなごませてしまう様子

問三

——Ⅰ「聞こえよがし」、Ⅱ「やつかまれる」の意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

Ⅰ聞こえよがし

- ア 言いくいことをあえてはつきりと言う様子
- イ 聞こえているのに全く気にしない様子
- ウ わざと当人に聞こえるように言う様子
- エ 誰にも聞かれたくないかのように声をひそめる様子

Ⅱやつかまれる

- ア ねたまれる
- イ 責められる
- ウ ほめられる
- エ 驚おどろかれる

問四

——③「走は肩をいからせた」とありますが、「走」がそのような態度をしたのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 同じ日本人である見物人たちが「ムサ」を見て、外国人を差別するような発言をしているのを聞き、怒りを覚えたから。
- イ 陸上競技の専門家でもない部外者が、外国人選手の出場をルール違反であるかのように意見しているのを見ていらだったから。
- ウ 身勝手な意見を言う見物人に対して注意をしようと思ったのに、「ムサ」自身からそれを止められて気持ち収まらないから。
- エ 見物人の一方的で無責任な発言が、「ムサ」だけでなく自分たち選手全体をおとしめていると思い、腹が立ったから。

問五

——④「俺たちがやっているのは競技であって、お手々つないでワン・ツー・フィニッシュする幼稚園の運動会じゃない」とありますが、「藤岡」は「競技」をどのようなものだと考えていますか。「藤岡」の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 競技とは、試合に勝つことが目的であり、勝つためには手段を選ばない選手がいたとしてもそれは当然のことである。
- イ 競技とは、選手の身体能力に差があったとしても、それを磨いていけばおのずと結果にあらわれてくるものだ。
- ウ 競技とは、結果よりも努力した過程が大切であり、その努力を通してチームメイトとのきずなを深めていくものだ。
- エ 競技とは、与えられた環境や才能の差を前提としながらも、選手全員が同じ条件のもとで戦い、勝敗を決めるものだ。

問六

——⑤「もやもやが晴れていく」とありますが、これを比喩表現で言いかえている部分を、これより後の本文中に求め、八字でぬき出しなさい。

問七

——⑥「本当の意味でのかしこさ」とありますが、「走」はこれをどういうことだと考えていますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 感情に左右されずに落ち着いて自分自身を見つめ、自分がどうすべきかを考え判断すること
- イ レースの流れやライバルの体調を分析して、自分の走りのペース配分をすること
- ウ 他人の考えや思っていることを推測し、適切な言葉に置きかえて正確に言い当てること
- エ 周囲からの期待やプレッシャーに負けることなく、自分の走りのスタイルを貫くこと

問八

—— ⑦「あだ名が『修行僧』の高校生って、ちょっといやだろ」とありますが、「藤岡」が周囲から「修行僧」というあだ名を付けられたのはなぜですか。本文中に描かれてある「藤岡」の態度や様子からあだ名の由来とは関係のないと思われるものを~~~~~ ⑦①から一つ選び、記号で答えなさい。

⑦ 頭をつるつるに丸めた、ひよろ長い男が立っていた

① 「敵状視察だよ」と藤岡は言った

⑦ 「たとえ俺が一位になったとしても、自分に負けたと感じれば、それは勝利ではない」

① ストイックな態度で清瀬に一礼し、今度こそ去っていく

問九

—— ⑧「それよりもいま、走の心を占めているのは、藤岡の姿だった」とありますが、「走」の心はなぜ予選の結果よりも「藤岡の姿」にとらわれているのですか。その理由を五十五字以上六十五字以内で説明しなさい。

三 次の①～⑧の 部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の 部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

① 子どものカンビヨウのため、今日は早退いたします。

② 無口な彼が的をイタ発言をし、おどろいた。

③ その温泉からは大量のスイジヨウキがふき出した。

④ たくさん練習してピアノがジヨウタツした。

⑤ ケンチク会社で働く父の職場に行ってみた。

⑥ 父は会社へ行くのにウラムチを使う。

⑦ この国道は私の故郷ヘイタる道だ。

⑧ ヨウゴの先生にお願いで、氷をもらった。

⑨ お祭りは老若男女でにぎわっていた。

⑩ そうは問屋がおろさない。

⑪ 雷が鳴り、直ちに活動を中止した。

⑫ 君はわが社の要だと言っているいい存在だ。